

会 議 録

会議の名称	平成29年度第8回富士見市社会教育委員会議
開催日時	平成30年3月5日(月) 午後7時～9時
開催場所	教育委員会 会議室
出席者	搦木道代議長、本間雄一副議長、荒川照子委員、板橋三宏委員、岡野雅一委員、京谷恵子委員、佐々木真理子委員、古澤立巳委員、吉田徹子委員、吉田廣子委員 事務局
欠席者	なし
公開・非公開	公開(傍聴人 1人)
会議次第	1. 協議事項 (1) 家庭学習応援事業の最終報告に向けて (2) 第31期のテーマについて 2. 報告及び連絡事項
会議資料	定期刊行物
会議録確認	搦木道代委員

会 議 内 容 (要点記録)

1. 開 会

○議長あいさつ

2. 協議事項

(1) 家庭学習応援事業の最終報告に向けて

事務局より、資料をもとに、平成29年度家庭学習応援事業の報告を説明。

【議長】意見を求める。

【委員】「友達がたくさんできた」「スマホを触らなくなってきた」「親子で取り組むようになった」「土曜日になるのを待っているようだった」「親子の時間が増えた」など、とても良い意見が多く出されているが、マイナスの意見や保護者からの要望など、資料に載っていない部分であったか伺いたい。

【事務局】苦情の連絡は受けていない。保護者からの問い合わせについては、委託業者の方で受けていて、こちらに報告があがるという形であった。実際の事例としては、子どもと保護者の間で学習の理解度に温度差があり、委託業者が保護者より相談を受け、その子どもの教室の講師と相談をして講義を進め、再度、保護者や子どもと話をし、納得をしてもらい受講していた。業者の方で、問い合わせや相談に、とても丁寧に対応をしてくれていたため、苦情などでトラブルになったケースはない。

【議長】親子交流会に参加された方の意見を求める。

【委員】参加された方は、とても楽しそうだったという印象。男子が最初は「帰る～」と言っていたのに、友達と一緒に作って食べていた。片づけなども、戸惑っている様子があったが、簡単に段取りを伝えると、女子が中心となり、みんながキレイに棚にしまい、最後テーブルを拭くまで、きちんと行っているのが微笑ましかった。懇談会に参加したら、講師の先生に褒めてもらうのが嬉しくて、子どもがやる気をだして頑張っているという保護者の意見が印象的だった。この後も（6年生も）、続けたいという意見があったが、市の予算的には厳しい。しかし、兄弟姉妹みんなを塾に行かせるのは経済的に厳しいという意見もあったので、この事業が成果として認められ、広がっていくととても良いと思った。

【委員】保護者の方が、子どもの宿題に悪戦苦闘している印象があった。しかし、Youtube を使って親子で調べている話や、会社の父親に電話して聞いているという話を聞いて、親子で取り組み頑張っている様子がうかがえたのが良かった。また、針ヶ谷コミセンは3校の小学生が集まっていたが、みんなとても仲が良いと感じた。学校とは別のところで関係ができていたのが、とても良かった。公共施設で行った良さがでたと感じた。

【委員】水谷公民館は、「他の学校の友達と仲良くなった」「これをきっかけに親も勉強に関わるようになった」「家庭で親子の会話が増えた」などの意見が多かったため、良かったと思った。一方、この事業のねらいである家庭学習の習慣化という点では、木曜日や金曜日に宿題をして、土曜日に臨んでいるという意見があったため、毎日コツコツの定着に結びつけるには、もう少しという

感じだった。

【委員】水谷公民館で感じたのは、子どもの順応性がすばらしいと思った。〇〇小学校の誰ではなく、あの子は優しい、この子はいつもやんちゃなど、サタデースクールのグループになっていたのに驚いた。スクールがスタートして1年も経っておらず、週1回しか顔を合わさないメンバーで、こんなに仲良くなるものなのだと感じた。大人だったら、なかなかこのようにはならないのではと感じ、子どもの強さを感じた。男女を問わず、「先生が言っているんだから、言うこと聞くんだよ」「大人にタメ語はダメ」など、子ども同士で話しているのが、印象的だった。同じ年代の子を持つ親としては、家庭学習の定着も大切だが、他校の子どもと触れ合う中で培われるコミュニケーション力も魅力的と感じた。

【委員】鶴瀬公民館は、とても元気のよい子が多く、国語と算数の間の休み時間で、男女関係なく、みんなで外に出て鬼ごっこをしていた。学校でいうところの、業間休みの感じだった。みんなの生き生きしている感じが良かった。保護者の親子交流会への参加が、もう少し欲しいところではあった。

【議長】交流会とは別で、他に意見を求める。

【委員】「学校で手が挙がるようになった」「褒められることでやる気がでてきた」との意見が出ているところを見ると、非常に効果はあったと思う。全員が変わるということは無理だが、1人でも2人でも変わっていく子が増えていくことが良い。「ゲームの前に、宿題をやる」「遊ぶ前に宿題を終わらせる」という意見については、すごい進歩である。先ほど、サタデースクールの宿題を、木・金曜日に行くという話があったが、サタデースクールがなかったら、その子は、木・金曜日にも勉強をやらないうちだろうと思われるので、1週間の内、2日でも3日でも、勉強をする習慣がついたと考えれば、成果はあるのだろうと感じる。勉強に対して自信のない子どもが、学校とは別の場所で学習することで、自信につながっていくということは、とても良いことだと感じた。

【委員】資料の中に、効果測定の結果があるが、世間でいわゆる“学力”というところ、この数字を見てしまいがちである。しかし、この学力を支えるものは、保護者や児童生徒の意見で書かれている内容の部分で、基礎となってくる。家族の変容、また、個人の変容がとてもよく表れている。数字で出てくる学力は、学力の一部であって、数字で出てこない、家庭や個人の変化がとても大事。

【委員】意見をみていると、随所に効果が表れていると感じる。先ほどの話でもあったが、最終のアンケートでも、子どもたちの家庭学習の時間がどのように変わったか、勉強の仕方がどのように変わったかなど、個人の変容が出てくると十分な成果として、来年度につながっていく。

【事務局】3月で終了したのち、アンケート結果については報告させていただく。

【委員】交流会にきた保護者の意見は聞くことができたので良かったが、来られなかった保護者の方たちもどのような意見をもっているか気になるころではある。

【委員】水谷公民館では、子どもたちから「来年もやりたい」という意見が出ていた。

【委員】保護者も、環境があると子どもたちはやれるが、土曜日のサタデーがなくなると、やらなくなるかも、という心配をしていた。

【委員】家庭学習が定着したのであれば、本来サタデースクールがなくても家庭で

きるようになっているはずだが、誰かに引っ張ってもらわないと、なかなか継続が難しいというのが現実のところではないか。

【委員】来年度の6年生（サタデースクールに今年参加した5年生）にアンケートなどで実態調査を行うと、家庭学習の定着の状態が見えてくるかもしれない。

【事務局】水谷公民館では、退職された先生がサークルとして小学生に勉強を教えていたりする。今回の親子交流会の中で、次年度に学ぶ場として、学習支援を行っている団体につなげるということはできるということ、保護者の方にお伝えした。

【委員】保護者の方の意見で、一緒にやっても解けないという話があったが、子どもがスクールの先生に聞くということで、保護者の負担はかなり減ったのではないか。そのため、スクールを6年生になっても続けたい、という気持ちはよくわかる。

【委員】やらない子どもに「やりなさい」と言っても無理。やはり、環境をつくってあげることが大事。それは、保護者が子育ての中で気づきながら行っていくものだと思う。そのため、子どもだけじゃなく、親も学ばないといけない。学校任せの親も多い気がするが、先日の親子交流会で、保護者からたくさん意見が出て、反抗期の話なども出ていた。あのような話し合いの場があり、親同士の意見交換ができることが今後も必要ではないか。

【委員】子どもの気持ちとして、最初は「行かされた感」が強かったかもしれないが、資料をみていると、家族のつながりに変化が出てきているのがとても良い。引き続き、習慣ができるように地域の学習支援を行っている団体の方へつながっていくと、さらに良い。

【委員】子どもや保護者の意見として、マイナスのものは聞いているか。

【事務局】「宿題が多い」「勉強時間が長い」などの意見は、子どもからあがっていた。

【委員】この事業の趣旨として、家庭教育支援も視野に入れているのであれば、来年度は子どもと保護者、家庭の中で目標をたててもらい、そこに向かって親子で取り組むことも良いのではないか。今回の資料をみていると、家族の変化が大きく出ているように思うので、効果として期待できるのではないか。

(2) 第31期のテーマについて

【議長】テーマについて、どうするか。

【委員】家庭教育支援会議については、どうなったのか。

【事務局】28年度に教育委員会内の関係課で会議をもった。その家庭の困り感や、楽しみ感、余裕の有無により、行く施設は公民館や相談室など異なる。範囲が広いため、家庭を分類して考えてみてはどうかという話になった。29年度より、富士見市子どもの貧困対策整備計画の中の「保護者の養育力の向上」の中に位置づけを行い、教育分野と福祉分野双方で考えて行く予定（資料にて説明）。

【委員】テーマの範疇として、社会教育施設や生涯学習も入ってくると思われる。ここ数年は、家庭や子どもに焦点を当ててきている。今回も同じところに焦点を当てるか否か。

【委員】前々期は、家庭教育に結びついたのが、資料にある世帯構成の三角の上の部

分（専門的対応が必要な家庭）の家庭であり、経済的課題などが挙げられ、これまでのテーマにもなかつたようなので議論をしたが、とてもデリケートな部分が多く、特化して考えるには難しかった。そのため、家庭環境＝家庭教育という視点でまとめていった経過がある。前期は、もう少し広く地域で家庭教育を捉えるようになり、報告書をまとめた。教育相談室の統計データなどでも貧困問題などがあり、家庭をいろんな角度から考えると、みえてくるものがあるのではということやってきたが、結論は難しいということになった。

【委員】先日の5委員研修会で、教育振興基本計画を聞いた。テーマを考える時、この計画に沿ったものが良いのでは。

【委員】経済的な部分については、個別の対応となってくる。テーマとするのは厳しいのではないか。

【委員】学校ではネットワーク協議会が一部の学校にある。委員には守秘義務も課せられ、個別対応が必要な家庭についての対策が取られていないわけではない。

【委員】資料にあるピラミッドの真ん中の層「不安や悩みを抱えている家庭」については、見えにくい部分がある。上の層については、目に見えるかたち。

【議長】ここ数年やってきていることもあり、一旦テーマとしては、家庭教育と別のものを考えていくことでよいか。

【委員】よい。

【事務局】親の学習について、6年前よりこの会議で取り組んでもらっている。それが、家庭教育支援会議であり、今年度やってきた家庭学習応援事業の中で行った家庭教育支援につながっている。事業化には時間を要するが、生涯学習課が取り組む事業のヒントであり、理念的なものを、この社会教育委員会議からいただいている。

【委員】最初は、いろんな委員より漠然と感ずることを出してもらおう中で、所属する団体でどういう風に子どもを支えているのかを話すようになった。その中で、共通する課題が出てきたため、その解決策を議論しながらまとめていったのが、これまでの流れだった。

【議長】それぞれの出身母体で、感じていることの見解を求めろ。

【委員】道徳が教科になる。地域活動で感ずるのは、本来家庭で教わろることを教わっていない子が多い。そのため、地域で教えていくということは、とても大事だと感ず、率先して行っている。学校に華を活けていると、子どもたちが気にかけてくれるのが、とても嬉しい。

【委員】本来家庭で教わろることを、学校に求められることが多いが、学校はそれ以外にも教えることが大変多い。そのため、地域で子どもを見てもらえろることはとてもありがたいと感ずる。

【委員】一方で、資料の課題にもあるが、家庭以外の場所、家庭で教わろることを教えていく必要があるということが、挙がっており、これが重要と感ずる。

【委員】学校で活動をしていて、今の保護者の雰囲気として、あいさつや見守りはしてくれる。しかし、それ以上の関わり、例えば地域活動のサポーターになると少し抵抗がある様子。こちらも、無理のない範囲での呼びかけを積極的に行う努力をして、少しでも地域で子どもを見られる環境を作りたいと思う。

【委員】親の教育力や保護者のマナーの低下の話が挙がる一方で、きちんと道徳的価値

値観をもった保護者がいることも事実。マイナス面は声高に言われてしまう傾向があるため、後者の保護者を取り込んでいくことが必要。

【委員】職場にも、働きながら子育てしている同僚がいる。限られた時間でバリバリ仕事を行いながら、子どもの連絡が入ると学校へ行ったりしている。置かれている状況は人それぞれだが、その人を見てみると、道徳的価値観をもった保護者に該当すると思う。全体的な傾向として、学校や地域に「任せっきり」という傾向はあると思うが、保護者に関心をもたせながら、協力を求めていくと、呼びかけに答えてくれる保護者は多く現れてくるのではないか。

【委員】中高生は、地域にでてくると活力になるが、なかなか地域のイベントに出てきてもらえない。ただ、役割を与えると、とてもよく動いてくれる。

【委員】水谷東地域は、防災で中学生が参加している。中学生や高校生は地域で活躍できるので、きっかけづくりが大事。

【委員】地域防災の中学生参加で、日程調整が難しいと聞く。

【議長】そろそろ時間だが、いろんな話が出てきているので、次回このような感じで、地域の話からテーマを決めていこうと思うが、よいか。

【委員】了承。

次回会議日程

平成30年度第1回会議

日程：平成30年4月10日（火）午後7時～

場所：教育委員会 会議室

3. 閉 会

○副議長あいさつ